



ある町では、キュウリの栽培がご法度。その言い伝えによれば「スサノオノミコト」がキュウリ嫌いという説からだそうです(写真はイメージ)

第七十三回

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし

坪谷の百万遍

昔、坪谷地区に、今でいうチブスが流行して病気で倒れる人たちが大勢出ました。当時はよい薬もありませんでしたから、病気除けのために百万遍をして仏様におすがりしたようです。坪谷の場合は桐の木で作られた数珠玉が百八個ありました。数珠玉を順送りするとき、調子を合わせて鳴らす銅鐘もあります。銅鐘は棒を差して二人で背負って叩くようになっていきます。

毎年土用に入った7月22日に行いました。昼間の主役は子どもたちでした。数珠を持つ者、鐘を持つ者に分かれ、下坪谷の全戸と中坪谷の一部、だいたい22軒くらいの家を一軒毎に回りました。

数珠を回すときには必ずその家の者が一人出て一緒になって回しました。訪れる家では子どもたちに梅干しやきゅうり揉みなど出してお馳走しました。子どもたちは喜んで食べていました。そのご馳走が当時はなによりのお楽しみでした。

夜の行事は7時頃から始まりました。二十有余軒の家でたくさんのお団子を作り集まりました。この団子をもらうのが楽しみで大勢の人たちが集まってきたそうです。

百万遍のお団子を食べれば疫病除けにな

る、という信仰があったと思います。こうした風習も昭和12、13年頃まで、以後は立ち消えになってしまいました。

胡瓜が作れない家

簡単に栽培出来る野菜、例えばトウモロコシやキュウリを作つてはいけないという風習を聞きますが、邑楽町のある家でも先祖代々キュウリを栽培することを禁忌としているそうです。

その家では、ある年、庭の堆肥場にキュウリが生え、そのままにしておく、つるが延びて花が咲き、やがていっぱい実つたそうです。そこで「栽培しては悪い」が、このキュウリは自然に生えただからと採って、家中で食べたそうです。

ところが、小学生のお嬢さんが突然病気になるり亡くなりました。誰もがあのキュウリは、家の庭先で種もまかず、肥料もやらないのに花が咲き、大きくなったものを採つたので栽培したものと同じだ。あれさえ生やしておかなければ娘は死ななかつたらうにと思いました。

一家の深い悲しみは後悔になり、「わが家はやっぱりキュウリが作れない家系なんだ」と再認識したそうです。

キュウリの栽培はいけません、食べるのは差しかええないということです。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



冬の使者
(おうら中央
多目的広場)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶毎年2月に青少年育成推進大会が開催されていますが、その中で行われる「大声コンテスト」の次回のテーマは「どんな大人になりたいか」です。小さい頃はこんな大人になりたいという理想は持っていませんでしたが、近頃はジブリ映画の「千と千尋の神隠し」に出てくる銭婆に憧れたりしています。大きな心で包み込むような優しさを持ち、相手を信じているからこそその厳しい対応が自然とできる大人になりたい。大きい器の大人が増えれば、その中で育っていく子どもたちも自然と本当の優しさや思いやりを学ぶことができるのではないかと思います。年上の人からだけでなく、純粋であるからこそ、子どもたちから学ぶことも大切にしながら、まだまだ成長しなればと思う毎日です。(久保田)

広報おうら

ORA TOWN Public Relations



平成29年12月号 No.615

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692(住所記入不要)

☎0276-88-5511(代表)

☎0276-47-5007(企画課直通)

☎0276-89-0136

http://www.town.oragunma.jp

✉kohoswan.town.oragunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL http://www.town.oragunma.jp/k



UD FONT
by MORISAWA

この広報紙は、見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



この広報紙は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。